

経済経営学類



100年の伝統と実績をもとに次の学びへ
幅広い教養と経済・経営の専門知識を身につけ、
グローバルに活躍する人材を育成します。

- 経済学コース ・経済理論モデル / ・グローバル経済モデル
- 経営学コース ・地域経営モデル / ・会計ファイナンスモデル

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 経済学と経営学の専門知識
- エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- グローバルに思考し実践に進む力
- キャリアを見据え自立し協働する力

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状(商業)

卒業後の進路

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など ● 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防 ● その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など) ● 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陸銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村證券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫)など | <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど) ● 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど) ● 製造業(クボタ、小松製作所、福島キヤノン、キーエンスなど) ● 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど) ● メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など) ● 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など) ● コンサルタント、マーケティングリサーチ(アクセンチュア、マクロミルなど) ● 専門職
(商業高等学校教諭、公認会計士、税理士、社会保険労務士など) ● 大学院進学
東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、
福島大学など |
|--|--|



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1セメスターから第3セメスターまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4セメスターから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7セメスターから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。



学類長メッセージ

先行きが不透明な時代を「しなやか」に渡る術を修得

経済経営学類は、1922年に創立された福島高等商業学校の伝統を引き継いでおり、令和4年に100周年を迎えます。この間に卒業した同窓生は2万5千を超え、経済界のみならず、各界で活躍しています。カリキュラムは経済学コース、経営学コース、コース横断的なグローバルエキスパートプログラムを中核としています。また、入学時から所属するスタートアップセミナーや語学系科目など、少人数で学ぶ科目が豊富に準備されているのが特徴です。現在の経済・経営の動向は、情報技術の急速な進展を伴うグローバル化によって、これまで以上に不透明になってきています。学生の皆さんには、このような世の中を「しなやか」に渡ってゆく術を身につけた人材に育っていただきたいと思ひます。

経済経営学類長 末吉 健治 教授

教員紹介 ※2022年4月1日現在

経済学コース	経営学コース
荒知宏 (国際経済学)	稲村 健太郎 (租税法)
石川 大輔 (マクロ経済学)	岩井 秀樹 (人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザイン)
井上 健 (統計学、計量経済学)	遠藤 明子 (マーケティング)
岩本 吉弘 (社会思想史)	奥本 英樹 (ファイナンス)
大川 裕嗣 (日本経済史)	奥山 修司 (マネジメント会計、取引デザイン)
菊池 智裕 (西洋経済史、ドイツ農業史・社会経済史)	貴田 剛信 (管理会計、原価計算)
熊澤 透 (労働経済、社会政策、社会保障)	金 善照 (組織行動論)
佐藤 英司 (産業組織論)	下山 誠 (会計学(財務諸表論、原価計算論)、監査論)
佐藤 寿博 (経済学(近代経済学))	根建 晶貴 (財務会計、企業評価分析)
佐野 孝治 (開発経済学、アジア経済)	野際 大介 (マーケティングサイエンス、経営統計学、消費者行動論)
朱 永浩 (アジア経済論、中国経済論)	野口 寛樹 (組織論、非営利組織論)
末吉 健治 (経済地理学)	平野 智久 (会計学(財務会計論))
十河 利明 (アメリカ経済論)	村上 早紀子 (地域づくり、住居学、都市計画)
沼田 大輔 (環境経済学)	伊 卿烈 (経営戦略、国際経営論、ビジネスイノベーション論)
藤原 一哉 (財政学)	
藤原 運 (地域経済学、地方財政論、環境経済学)	
三家本 里実 (労働過程論、労働社会学)	
吉田 樹 (都市・地域計画、地域交通政策、観光政策)	

グローバル・エキスパート・プログラム
伊藤 俊介 (朝鮮近代史)
井本 亮 (日本語学、現代日本語文法、日本語教育)
吉高 神明 (国際公共政策論、国際関係論)
クズネツォフ・マリナ (社会学)
グンスケフオンケルン・マルティナ (外国語教育法)
佐々木 俊彦 (英文学、カルチュラル・スタディーズ)
手代木 有見 (中国近代思想史)
福富 靖之 (理論言語学、比較統語論)
松浦 浩子 (応用言語学、英語教育)
マッカーズランド・フィリップ (英語教育法(異文化コミュニケーション))
吉川 宏人 (19世紀ロシア文学)

詳しい経歴はこちら



※優秀な卒業研究に対して飯塚賞を授与している
飯塚賞とは、飯塚毅氏の同意会への寄付金及び氏の栄誉を永く記念するために「飯塚基金」として運用益金をもって毎年度の優秀卒業生を表彰するものである。

経済学コース

経済理論モデル / グローバル経済モデル

経済学コースでは、経済社会の課題はもちろん、歴史と現在、そして未来を考えるために、各教員が連携、協力し合い、研究と教育を進めます。学生の皆さんにとっても、科目が選びやすくなり、経済社会をより多角的に理解できる環境が整っています。

主な科目

- ミクロ経済学
- 政治経済学
- 公共経済学
- 産業組織と規制の経済学
- 国際経済学
- 世界経済論
- 経済学史
- マクロ経済学
- 財政学
- 労働経済
- 計量経済学
- 国際関係論
- アメリカ経済論
- 日本経済史
- 入門金融論
- 経済政策
- 環境経済学
- 日本経済論
- 開発経済学
- アジア経済論
- 比較経済学

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適応することができる人材の育成を目指します。

活動PICK UP!

ERE (経済学検定試験)

学生有志が、ゼミの枠を超え学習組織を立ち上げ、ERE (経済学検定試験) の勉強会を開いています。EREとは、経済学の基礎知識と初歩的な応用能力のレベルを判定する全国規模の検定試験で、多くの大学が大学院試験で取り入れています。勉強会では、学生同士が議論を重ねて問題の理解を深め、ERE大学対抗戦でも成果を上げています。学生が主体なので、知識のみならず、自主性を身につけるよい機会となっています。また、公的機関や金融機関の方々からお話を伺う企画を立てるなど、活動の範囲を広げています。経済学にむきあうことを通して、知識を深め、社会経験を積む、絶好のチャンスです。



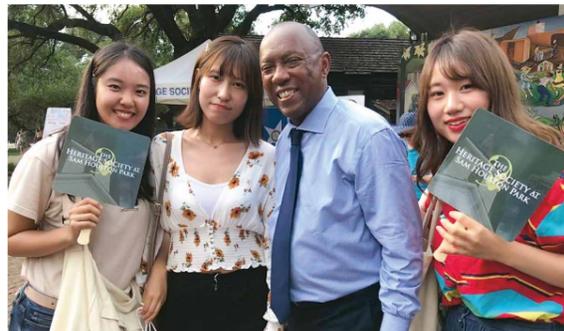
グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

活動PICK UP!

海外インターンシップと「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります (WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学 (University of St. Thomas) で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます (WEA II)。



Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



現場に赴き、多角的な思考を深めています

経済経営学類は、長い歴史と実績があり、幅広く多角的な学びを得られるところが魅力だと思います。現在、東アジア経済や物流分野について学んでいます。私が所属している朱永浩ゼミでは、コロナ禍においても工夫をしながら学外研修や他大学との交流を行っています。実際に現場に赴き、現場のリアルな情報に触れることで、より理解を深めることができている。この現場主義の考えは、現在行っている就職活動にも非常に役立っています。

経済経営学類 経済学コース4年
[宮城県立白石高等学校出身]

佐藤 直也さん



グローバル時代に対応する力を磨く

グローバル時代に対応できる能力や知識を身につけるために、「グローバル・エキスパート・プログラム」に参加して、さまざまなことに取り組んでいます。例えば Work Experience Abroad という授業では、米国テキサス州で行われるインターンシップに向けて、政治や文化の違いなどの学習を進めています。今年も新型コロナウイルスの影響で実現は難しいものとなっていますが、海外のことはもちろん、日本に関することも深く学ぶことができ大変充実しています。

経済経営学類 経営学コース3年
[茨城県立水戸第一高等学校出身]

浅野 桃可さん

Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

成長のための努力を惜しまず、幅広い知見を身につけたい

現在、経理部に所属し、売上や仕入伝票管理など会社の資金管理のほか四半期ごとの決算業務に従事しています。プレッシャーもありますが、会社経営を支える業務に携わることは、良い経験になると考えています。大学では地域経済について学び、地域課題を改善するための企画提案を行ってきました。その時に常に周囲の状況を把握することを心がけており、それによって観察力が磨かれたと思っています。これからも大学時代のように成長のための努力を惜しまず、多くの業務に携わり、幅広い知見を身につけていきたいと思っています。

東北電力株式会社
ビジネスサポート本部経理部経理センター
経済経営学類 国際地域経済専攻 2021年卒業

國分 菜々子さん

経営学コース

地域経営モデル / 会計ファイナンスモデル

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)も対象としながら、より幅広い視点で経営現象をとらえます。特に地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を超えて学ぶことができるのが特徴です。

主な科目

- 経営戦略論
- 経営組織論
- 組織行動論
- 人的資源管理論
- マーケティング論
- 消費者行動論
- 地域企業経営論
- 地域経済論
- 地域政策論
- 国際経営論
- 調査法
- 租税法
- 経営情報分析
- 財務管理論
- 現代ファイナンス
- 中級簿記
- 上級簿記
- 財務諸表論
- 原価計算
- 管理会計
- コスト・マネジメント

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

活動 PICK UP!

まちづくりのためのフィールドワーク

地域経営モデルでは、机上の学習に留まらず、実際にフィールドに出向くことで地域課題に取り組む点が特徴です。村上ゼミでは、空間の再編集および利活用、コミュニティビジネスなど地方都市が抱える課題をキーワードにしながら、地域の住民の皆さんや、まちづくり会社をはじめとした地域組織との議論および連携により研究活動に励んでいます。



会計ファイナンスモデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

活動 PICK UP!

“会計人”を目指したプログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」では、会計専門職や経理財務担当者、高校教諭や研究者など、多様な“会計人”を目指した主体的な学修を支援する体制を整えました。体系的な学修、所定の検定試験への合格、一部の大学院授業の履修などの基準を満たした学生に「会計エキスパート・プログラム修了証」を授与しています。学類棟1階には専用の自習室を設けているので、意識の高い仲間とともに緊張感を持って学修に取り組んでください!



Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



具体的な学びに興味がかきたてられます

現在所属しているゼミで、データサイエンスを学んでいます。データサイエンスとは、統計学や情報科学の手法を用いてデータから知見を引き出す学問です。インターネットが普及したことで、ビッグデータが蓄積されやすくなったことから、集まったデータを分析して課題を見つけ出し、それに対してどのような施策を打つのかを考えます。高校までは、今やっている勉強がどう役立つのかピンときませんでした。しかし大学での学びは具体的で興味深いので、とても楽しいです。

経済経営学類 経営学コース3年 | 吉田 かおる さん
[宮城県仙台三枝高等学校出身]



アイデアを形にすることに興味があります

今、一番興味があるのは、自分のアイデアを形にすることです。ゼミで、ビジネスプランコンテストやアカウントティングコンペティションという大会に参加し、世の中にあつたらいいなと思うものや、企業の経営活動に対して興味をもったことなどをパワーポイントを使ってまとめ、プレゼンテーションしました。この経験から、企業活動に常に意見や疑問をもつことの大切さを学びました。また、ゼミの仲間と、1つの目標に向かって協力する大切さも実感することができました。

経済経営学類 経営学コース4年 | 佐藤 壮太 さん
[宮城県泉館山高等学校出身]

Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

地方の製造業における生産性を お客様と一緒に高めたい

製造企業に対する業務システム導入に関わるプロジェクトに携わり、地方の中小企業における生産性の向上に取り組んでいます。日々、実感するのは大学時代に学んだ会計の知識が役立っていること。そして、ゼミなどで学んだ「問いを立てて構造的に考える」というアプローチは、仕事でも大変重要なことで、学生時代からこのような考え方を鍛える機会に恵まれたことはとても良かったと思っています。今後は、システムと会計の専門知識を武器に、中小製造企業の実産性の向上を、お客様と一緒に実現できるよう成長したいです。

アクセント株式会社
経済経営学類 企業経営専攻 2021年卒業

大木 信二 さん



コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム (グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学び、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積むことができます。

Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な空間から飛び出さない」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはず。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪れたり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深めるFukushima Workshop (Fukushima Ambassadors Program) を開講しています。

ドイツ語実践演習 / ロシア語実践演習

ドイツやロシアに渡航し、語学研修を受けます。同時に現地の小学校を訪問、幼児教育の現場を視察、少数民族の村を訪れるなど、さまざまな社会的・文化的なエクスカッション (小旅行) に参加します。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2ヶ月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用するのはもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上する、と評判です。

海外調査

中国、タイ、ベトナム、ミャンマーなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験に基づく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データに基づく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類の調査の実施後、集まったデータを

適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけしていきます。このようなデータに基づく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



コーオプ演習 / 連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオプ演習」と講義形式の「連携講義」があります。コーオプとは「cooperative (協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。

連携先には、アクセンチュア (コンサルティング会社)、自治体、NPOなどがあります。一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論 (東北税理士会)、証券市場論 (野村證券)、財務諸表監査 (日本公認会計士協会東北会) などがあります。

